

平成 21 年度生物多様性総合評価検討委員会 第 1 回検討会  
議事要旨

## 1. 今年度の検討について

- ・ 生態学会だけでなく、3 月の COP10 プレカンファレンスでも成果を発表してはどうか。
- ・ ホットスポットについては別の枠組みで来年度にかけて検討を進めていく。

## 2. 生物多様性総合評価報告書骨子案について

### (1) 評価報告書の骨子（構成、評価の枠組など）について

#### <矢印と色による評価>

- ・ 色、矢印がそれぞれ何を表しているのか混乱している。生物多様性の状態（State）を表しているのか、要因（Driver の状態・傾向・速度）を表しているのか、再度整理が必要。（→座長と事務局で整理する。）

#### <生態系サービス>

- ・ 生態系ごとに記述するとともに、全体のまとめとして総括の章を設けて書き込む。あるいは、それぞれの生態系でサービスを書きこむのは大変なので、4 つの生態系サービスで整理する方法もある。どちらがよいか、事務局で案をまとめて次回議論を行う。
- ・ 日本が国外のサービスに依存していることは総括に書き込んでおく必要がある。（→生態系サービスについては、里山里海 SGA, TEEB 等の成果も活用しつつ、年度内にこの委員会で可能な範囲で個々の評価の中で記述を行う方向で検討を進める。包括的な評価は、来年度も引き続き検討を行う。）

#### <対策の記述>

- ・ 対策に相当する指標の評価は、実施している数で評価するのか、対策の効果について評価するのか不明確。
- ・ 個別の対策の効果が上がっていても、全体としての評価が必ずしも上がるわけではないことは、最初に注記しておくべき。
- ・ 対策については単純に増減で評価し、効果があったかどうかは文章で述べるという方向で進める。

#### <総括の書き方>

- ・ 危機の相互作用（例：第 2 の危機の進行は、第 1 の危機の軽減となる）がある場合はこれについても記述する。
- ・ 想定される今後の日本の生物多様性のシナリオまたは予測、およびそれに必要な対策を書く必要がある。
- ・ これまで RDB のように、評価に相当するものが行われてきたかどうかを生態系それぞれについて記述する必要がある（いわば「評価の評価」）。
- ・ 「今後の課題（総合評価そのものの技術的な課題）」のほかに、「危機別・生態系別の評

価全体の総括・予測」という別の章を設けることとする。

#### <テキストの記述方針>

- ・ データがない、データはあるが評価したいものを正しく表せていない場合などは、確からしさの差異に留意し、科学的根拠に基づき記述をする。
- ・ 重要な点について科学的な評価に必要な情報が不足している生態系や分類群（海域、菌類など）について触れることは重要。

#### <2010年目標の評価の枠組み>

- ・ 達成度を○×△で評価する方法は分かりやすいが、傾向は無理に矢印で表さず文章で表現する。
- ・ 「達成した」と評価されるものが比較的多くなるのではないかと予想されるが、それが本当に現状を正しく表現しているのかどうか疑問があれば、別途記述の中でより補足する。

#### <その他>

- ・ Tipping Point、不可逆的な変化などがある場合は、総括的な章を設けるなどしてしっかり記述する。ただしメッセージ性を重視して重要な変化3つくらいに絞って出すか、全ての危機・生態系について述べるかは要検討。
- ・ 生態系別の指標における「生態系の規模・質」について、「健全性」「組成・機能」「質」のどの言葉を使うかは要検討。いずれにしても、きちんと定義してから使うべき。
- ・ 最終的な報告書に付属資料として載せるべきもの（例：これまで検討したデータ）は別途検討する。

### (2) 評価結果及びデータについて

- ・ 河床低下、土砂の搬出量などの現況データは日本全国が網羅されているので使えるのではないか。
- ・ 海の酸性化は、緯度別の国際的なデータがあったはず。
- ・ 窒素は国内出荷量だけでなく、輸入肥料、および大陸からの降下物のデータが必要。
- ・ 湖沼は富栄養化しているが、河川の水質は改善しており、併記せずに分けて書くべき。
- ・ 温暖化によるブナ林の面積推移のデータは予測であって、他のデータ（事実）と比べて異質である。
- ・ 温暖化による種の分布の変化は、できれば1種類ではなくメタ解析で議論するのが望ましい。1種だけ出すなら、それはあくまで例示であるので、文章表現を工夫すべき。データは樋口広芳先生に伺うとよい。
- ・ 砂浜の生物について個体数等のデータは少ないが、干潟 RDB から、エコトーンに生息するものが危機的であることは表現できるのではないか。
- ・ 野生生物の直接的な利用では、ハンター数の推移を入れる。
- ・ 溜め池のデータを活用すべきであり、また調整池を区別できれば望ましい。

- 外来種の防除計画の数、農地基盤整備面積のデータを入れる。
- ガンの飛来数について、伊豆沼など古くからモニタリングが行われているデータがあるので、事例としてでも良いので掲載する。
- 海域の混獲のデータは、FAO の統計には載っているが、日本の統計には無い。
- 今提示されているシギチドリ類の指数については、有意な変化なのか解釈に検討を要する。
- 外来種の「侵入数が増加し」とあるのは、単位時間あたりの侵入数なのか、累積なのかを明確にする。
- シカの分布拡大のデータはあるが、個体数の増加は全国データがない（→事例などを交えて記述する）。

以上